波乱よぶ今國会

一千億減税など看板を高々と掲げた自民党は、解散を目論み、人気挽回のあの手この手をつくして、今国会へもちこんだ。だがその裏には運賃値上げ、健保改悪、中小企業組織化などを今国会ではあくまでも通過させようと機をうかがつている。こういう重大なときこの国会の動きを伝える内容です。

この国会の動きを編集部では炭鉱政治局員、阿具根、阿部両参議にお願いして、本紙にその内幕を紹介して貰うことになりました。以下は両氏からの最近の国会の動きを伝える内容です。

自民党 中小企業にウインク

狙いは生協を潰し労基改悪へ

第二十六国会も二月にはいるやいよいよ本格的な審議が始りましたが、世界の好況の波にのつて日本も神武以来の好況であると宣伝され、石橋内閣は一千億の減税を打ち出して、あたかもいままでの政治は誰か自民党以外の人がやつたような恰好で、自己宣伝にこれつとめております。一千億の減税が年収五十万円以上の人に恩恵であり、実質は七百二十億の減税でしかなく、しかも国鉄運賃の値上げは必然的に私鉄の運賃値上げとなり、またガソリンの増税はトラック、自動車等の値上げをきたし減税の恩恵に俗さない大多数の人人には、逆に物価の値上りとなり日常生活がより苦しくなることはもうすでにご承知のことと存じます。

また国民皆保険の美名のもとに健康保険法は改悪を企図され、中小企業の助成に名をかりては一方的な「中小企業組織法」の通過を目論んでいるし、総評の春期闘争を目前に控えた今日、労働法施行後十年を経過したからといつては「団結権、団体交渉その他の団体行動権について」という労働次官通達を出して、組合の弱体化をねらつている等々、二十六国会は与、野党激突する如き法案がないと云われ、石橋内閣は五カ条の誓約の第一たる国会の正常化をうたいながら、保守党の意の如く運用しようとしているのであります。国会の解散を目標にかなりの波乱はまぬがれないでありましよう。

うつむく彼女たち

私は一月下旬より約一週間、三重県、愛知県方面の中小企業を視察して参りましたが、それはもちろん中小企業の実態をつかみ、今国会に提案される中小企業組織法案あるいは振興助成法案等の研究のためでありますが、その時の会話から二、三書いてみますと

○「あなたは何年位勤めておりますか」

「四年勤めています」

○「勤務時間は」

「朝八時から五時半までで、休みはお昼に四十分だけです」

○「給料は全部でどの位になりますか」

「少しです」

○「一万円位ですか」

「とんでもない」

○「では五千円位ですか」

「もつと少いです」

といつてさびしくうつむくのです私にはこれ以上聞くことができませんでした。これは陶器会社、毛織物会社等で働いている人と直接に話したことですが、なぜ彼女達ははつきりと自分の収入を云わないでしようか。

つぎに工場を終つて経営者側との懇談の模様を書いてみますと

中小企業の悲しい内幕

「中小企業組織法は強制加入にして勝手なまねができぬようにしていただきたい」

「それは憲法との関連もあり、法律でしばる事より、法律は守る事であり、お互いの団結を強くすべきではないでしようか」

「しかし中小企業はお互いが食うか食われるかの競争です。洋食のスプーンが一ダース百円でバイヤーに叩かれ、万年筆が一本五十円から百円です。これでは生活もできないし完全な製品はつくれない」…といつております。

この二つの会社から見られるように、日本の中小企業はお互いの対立を利用されて大企業からは圧迫をうけ、バイヤーからは足もとをみられ、止むなく品質を落すか、従業員の収入を極端に減らすかの二つの方法しか残されていない有様です。

まず最低賃制こそ

前者は中国の日本見本市で散々悪名をのこし、国民から大いに反省を迫られていますが、後者の方は全く労働者にシワよせられているのであります。そして「出血輸出」といわれるのは一体誰の血を流しているのか」と叫べば、直ちに首になり、闘争すれば会社はつぶれるし、云いたいことも云えない現状です。

社会党や総評はこの仲間と手を握つて最低賃金制を打ち出しているが、大企業の圧迫から守るためということで、中小企業の組織法が今国会で審議されますが、まず根本的に最低賃金の問題が解決されるべきであります。

さらに中小企業の育成発展のためには組織法の必要なことは勿論であるが、いまの中政連（中小企業政治連盟）の考え方、政府の考え方で行けば、表面の打出しは大企業の圧迫をはねのけるという事で大企業なり貿易関係なりの相手方に団体交渉を持つという、いさぎよい事を云つているが、ではその中小企業団体は従業員との団体交渉を持つかと云えば、それは困るというのである。

敵は笑顔でくる

さらに中小企業団体のねらいの第一は、今の労働基準法の改悪にも発展してきている。それが表面に出て社会党や総評にたたかれるのを恐れた中政連は、このような政治的な問題はとりあげないと腐んに弁解しているが、政治問題として取り上げるためにこそ中小企業政治連盟と名を打つているではないか。それこそが中政連の人々の願う所でありさらに大企業との闘いをあふりたてて、生活協同組合をまつ殺しようとしていることが第二のねらいであります。

そこにこそかれらのいう強制加入の意義があり、強制加入さしておいて生協へ対する卸し値を締めつけてしまう考えである。

だから自民党も積極的に本問題にとりくんで、いかにも大企業と闘うが如き言動をして国民の中に食い入り、生協をつぶし労働基準法を改悪できるとすれば、これこそぬれ手に粟の一挙両得、その上ホコ先は労働金庫にも向けられようと国会の正常化という名のもとでほほ笑みながら話しかけられる時、狼が子羊の母親にバケて、やさしいねこなで声でその子供を連れ出したイソップ物語りにも似ているではありませんか。

同志の皆さん、しつかりと手を握り合つて頑張りましよう。

地元民やつと納得

大牟田 ゴミ処理場実現へ漕ぎつく

大牟田市にゴミ処理場を新設する計画が立てられていたが、新設予定土地大牟田港附近の住民の反対に会い難航していたが、数回の話合いの末つい話は諒解し、建設への見通しがついた。

現在大牟田のゴミ処理場は天領町に一カ所しかなく、その処理能力も約一万貫程度でこれでは現在二十万の市民の処理場としては心細く、将来は三十万を超すと思われる当市に是非もう一つ新設しようという声が起つたのも当然だつた。

市当局で早速土地を物色したが、距離的にも近く、予算の関係で手軽に入手できる土地は相当困難であつたが、ついに大牟田港の突端に予定されるに至つたもの。

ところが附近住民から衛生的にも好ましくなくまた附近には商店街も将来できる予定もあり、かつ大牟田港の港としての効力が落ちるなど反対が唱えられ、計画は一時ぎしようした形だつた。もともとこのゴミ処理場には最新式の設備をもつコツトレール（収塵器）で飛沫を防いだり、煙突も四十五米にするなど市保健所あたりでも衛生的には大丈夫との証明もあり、また港の機能としても、大牟田港は機帆船を対象としてつくられたことや、将来大牟田が海の方に延びてもこれは工場街であり、附近は新大牟田の中心になつてもそう影響しないなど、各面から亘つての説明に、地元の人たちも納得するに至り、ようやく最近になつてこれが実現したものである。

市では予算千九百万円を予定しており、内起債九百万円（政府からの借金）であるが、起債の返済は将来の市政に支障を与えるという意見も起きており、これを用いずに行うかどうかが最終的に決定されようとしている。

"世界情勢"を聞く

三川行動隊で班長会議

三川支部行動隊では去る三日、班長六十五名が立願寺保養所で班長会議を行つた。

この日十時にバスを仕立て出発、途中車中の雰囲気もなごやかに肥後路を快走したが、とくに赤田池を起点として玉名市にはいる間の自動車クイズにはみんな子供にかえつて大はしやぎ、すなわちすれ違う自動車の台数を当てる遊びだが、これで途中の運のりもまたたくうちにすぎてしまつた。

少い人で四台、多い人で八十数台という台数をめいめいが予想して千差万別だつたが的中者は十二台で、この該当者は支部長からの表彰もあるというなごやかさ。

保養所に到着後、ただちに具島九大教授より「世界情勢について」というテーマで講演が行われたがこの講座、非常に名調子でゼスチユアたつぷりなユーモアをまじえての話に、全員は時間のくるのも忘れ、便所に行く時間も惜しそうな恰好。

完全に聞き手を魅了したこの講演は延々四時間にわたつて行われたこのあと質問をまじえるいろいろな話が行われたが、春闘にたいする心構えをさらに一新させて全員帰路についた。

菅生對策本部生る

二月十二日福岡労働会館で県総評、九炭労、全医労、九大職組、社会党、共産党など約二十名が集つて菅生事件対策本部の結成会議を行つた。このため、早速二十四日は現地調査団を派遣して、事件の宣伝を強化することになつた。

× ×

雨をつき登山行

三作登山部古処山へ

三作登山部では去る三日（日曜）に同部発会式をかねて古処山登山を行つた。

現在登山部員八十余名だが、昨年より懸案されていた発会式を、第一回登山と一緒に行おうというわけであつたが、この日折悪しくの雨天にもかかわらず、参加十四名で決行した。

この登山に参加した支部の五反田教宣部員はこの日の登山行をつぎのように記してきている。

……二月三日、雨天を冒して古処山登山を決行した。昨夜来からの降りしきる雨の中を午前七時三十分大牟田駅前に集合、全員十四名うち紅一点も参加しての登山隊一行であつた。みな登山服、登山靴にみをかためて、雨なんのそのと意気も高い。

午前七時四十三分、西鉄大牟田駅出発。久留米に到着したころからも雨も止み、登山隊の一行の意気はいよいよ上る。西鉄甘木駅よりバスで秋月直行。午前十時五十分登山口へ到着した。はじめて登山に参加した小生などは傘、オーバーをあずけての登山である。

一合…二合目となると汗が出てくる。リーダー格の坂本さんより「小休止、服装はなるだけ軽微に」との注意があるとう